

平成30年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成29年10月27日

上場会社名 株式会社 藤商事

上場取引所 東

コード番号 6257 URL <https://www.fujimarukun.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 井上 孝司

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 広報・IR室長 (氏名) 村上 和繁

TEL 06-6949-0323

四半期報告書提出予定日 平成29年11月10日

配当支払開始予定日

平成29年12月6日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第2四半期の業績(平成29年4月1日～平成29年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第2四半期	29,553	40.2	4,173	250.9	4,258	257.8	2,706	214.5
29年3月期第2四半期	21,078	13.4	1,189	159.9	1,190	124.4	860	179.6

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第2四半期	112.50	
29年3月期第2四半期	35.27	

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第2四半期	62,435	47,946	76.8
29年3月期	57,370	47,210	82.3

(参考)自己資本 30年3月期第2四半期 47,946百万円 29年3月期 47,210百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期		25.00		35.00	60.00
30年3月期		25.00			
30年3月期(予想)				25.00	50.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

(注)29年3月期期末配当金の内訳 普通配当 25円00銭 記念配当 10円00銭

3. 平成30年3月期の業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	50,000	51.7	2,500		2,500		1,700		69.68

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	30年3月期2Q	24,395,500 株	29年3月期	24,395,500 株
期末自己株式数	30年3月期2Q	1,000,000 株	29年3月期	株
期中平均株式数(四半期累計)	30年3月期2Q	24,056,702 株	29年3月期2Q	24,395,500 株

四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件および業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(4)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法について)

四半期決算補足説明資料は、平成29年10月30日(月)に当社ウェブサイトに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) キャッシュ・フローの状況に関する説明	3
(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 四半期財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国経済は、政府主導による経済政策などを背景に企業収益や雇用情勢は改善し、輸出や生産、個人消費につきましても持ち直しの動きが見られ、景気は緩やかな回復基調が継続しました。

パチンコホール業界におきましては、のめり込み防止や依存症対策の一環として過度の射幸性を抑えた遊技機の導入をはじめ、さまざまな施策を通じてファンの皆様がパチンコ・パチスロをより安心・安全に楽しめる環境づくりを推進しております。

また、平成29年9月には「風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律施行規則及び遊技機の認定及び型式の検定等に関する規則の一部を改正する規則」が公布され、平成30年2月の施行後は、ファンの皆様により手軽にパチンコ・パチスロを楽しめるようにするための環境整備が進むとともに、多種多様で幅広いファン層に受け入れられる遊技機へのニーズが高まると想定しております。

このような状況のもと当社は、ものづくりに対する今までの常識や慣習にとらわれることなく、自らが変化に順応する『変わる挑戦』に挑み続けることにより、新たな試みや独自性の追求など、差別化された商品性の実現を目指しております。

当第2四半期累計期間におきましては、新機能を備えたパチンコ・パチスロの新枠・新筐体を導入し、当社の主力タイトルである「リング」シリーズのほか、人気シリーズの続編機種などを市場投入いたしました。

また、8月には名古屋事業所に西館が竣工し、開発部門のフロアを移設したほか、従来と比較して約4倍の生産能力を有するパチスロ遊技機の生産ラインを新設したことにより、開発・生産体制のさらなる強化を図りました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の業績につきましては、売上高295億53百万円（対前年同期比40.2%増）、営業利益41億73百万円（同250.9%増）、経常利益42億58百万円（同257.8%増）、四半期純利益27億6百万円（同214.5%増）となりました。

※製品別の状況は次のとおりであります。

（パチンコ遊技機）

パチンコ遊技機につきましては、第1四半期に発売しました「CRクルクルセブン」（平成29年6月発売）、「CRリング 終焉ノ刻」（平成29年6月発売）を継続販売したほか、前事業年度に発売したシリーズ機種などを追加発売いたしました。

以上の結果、販売台数は50千台（対前年同期比20.1%減）、売上高210億25百万円（同0.2%減）となりました。

（パチスロ遊技機）

パチスロ遊技機につきましては、新規タイトルとして、「パチスロ 世界でいちばん強くなりたい！」（平成29年7月発売）、「パチスロ 地獄少女 宵伽（よいのとぎ）」（平成29年8月発売）を市場投入いたしました。

以上の結果、販売台数は20千台（前年同期は0千台）、売上高85億27百万円（前年同期は8百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

（資産）

当第2四半期末における流動資産は446億90百万円となり、前事業年度末に比べ61億45百万円増加いたしました。これは主に、受取手形及び売掛金が32億93百万円、現金及び預金が24億52百万円、原材料及び貯蔵品が8億35百万円増加したことなどに対し、繰延税金資産が5億26百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は、177億44百万円となり、前事業年度末に比べ10億79百万円減少いたしました。

この結果、総資産は624億35百万円となり、前事業年度末に比べ50億65百万円増加いたしました。

（負債）

当第2四半期末における流動負債は127億58百万円となり、前事業年度末に比べ42億19百万円増加いたしました。これは主に、買掛金が36億37百万円、未払法人税等が11億23百万円増加したことなどによるものであります。固定負債は17億31百万円となり、前事業年度末に比べ1億10百万円増加いたしました。

この結果、負債合計は144億89百万円となり、前事業年度末に比べ43億29百万円増加いたしました。

（純資産）

当第2四半期末における純資産合計は479億46百万円となり、前事業年度末に比べ7億35百万円増加いたしました。これは主に、四半期純利益27億6百万円、剰余金の配当8億53百万円および自己株式の取得11億57百万円などによるものであります。

この結果、自己資本比率は76.8%（前事業年度末は82.3%）となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前事業年度末に比べ24億52百万円増加し232億47百万円となりました。

当第2四半期累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、73億46百万円（前年同期は56億83百万円の資金の増加）となりました。

これは主に、税引前四半期純利益42億53百万円、仕入債務の増加額37億83百万円、減価償却費15億83百万円などが増加の要因であり、売上債権の増加額32億93百万円などが減少の要因であります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、28億82百万円（前年同期は22億52百万円の資金の減少）となりました。

これは主に、有価証券の償還による収入3億円などが増加の要因であり、有形固定資産の取得による支出29億45百万円、投資有価証券の取得による支出2億円などが減少の要因であります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、20億11万円（前年同期は6億9百万円の資金の減少）となりました。

これは、自己株式の取得による支出11億57百万円および配当金の支払額8億54百万円によるものであります。

(4) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、平成29年5月12日発表の業績予想に変更ありません。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

（単位：百万円）

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	21,195	23,647
受取手形及び売掛金	5,501	8,794
有価証券	1,202	1,601
商品及び製品	436	2
原材料及び貯蔵品	3,562	4,398
前渡金	2,478	2,183
繰延税金資産	3,317	2,791
その他	859	1,283
貸倒引当金	△7	△13
流動資産合計	38,545	44,690
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1,674	3,851
機械及び装置（純額）	216	994
工具、器具及び備品（純額）	1,922	2,152
土地	3,118	3,135
その他（純額）	3,146	289
有形固定資産合計	10,078	10,423
無形固定資産	211	330
投資その他の資産		
投資有価証券	4,596	4,151
長期前払費用	3,178	2,101
その他	1,223	1,203
貸倒引当金	△464	△464
投資その他の資産合計	8,534	6,991
固定資産合計	18,824	17,744
資産合計	57,370	62,435

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成29年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成29年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	5,811	9,449
未払法人税等	—	1,123
賞与引当金	298	458
その他	2,428	1,726
流動負債合計	8,538	12,758
固定負債		
退職給付引当金	797	794
その他	823	936
固定負債合計	1,620	1,731
負債合計	10,159	14,489
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,281	3,281
資本剰余金	3,228	3,228
利益剰余金	40,409	42,261
自己株式	—	△1,157
株主資本合計	46,918	47,614
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	291	331
評価・換算差額等合計	291	331
純資産合計	47,210	47,946
負債純資産合計	57,370	62,435

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
売上高	21,078	29,553
売上原価	10,941	15,857
売上総利益	10,136	13,696
販売費及び一般管理費	8,947	9,522
営業利益	1,189	4,173
営業外収益		
受取配当金	44	47
受取賃貸料	9	10
利用分量配当金	8	12
受取ロイヤリティー	4	5
還付加算金	16	5
その他	17	12
営業外収益合計	101	94
営業外費用		
シンジケートローン手数料	96	6
賃貸収入原価	2	2
その他	1	0
営業外費用合計	100	9
経常利益	1,190	4,258
特別利益		
固定資産売却益	0	2
特別利益合計	0	2
特別損失		
固定資産売却損	—	0
固定資産除却損	1	7
投資有価証券評価損	17	—
特別損失合計	18	7
税引前四半期純利益	1,171	4,253
法人税、住民税及び事業税	287	1,019
法人税等調整額	23	527
法人税等合計	311	1,547
四半期純利益	860	2,706

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純利益	1,171	4,253
減価償却費	718	1,583
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△0	5
賞与引当金の増減額(△は減少)	81	159
役員賞与引当金の増減額(△は減少)	△55	—
退職給付引当金の増減額(△は減少)	118	△3
受取利息及び受取配当金	△56	△54
固定資産売却損益(△は益)	△0	△2
固定資産除却損	1	7
投資有価証券評価損益(△は益)	17	—
売上債権の増減額(△は増加)	△1,122	△3,293
たな卸資産の増減額(△は増加)	△384	△402
前渡金の増減額(△は増加)	420	294
長期前払費用の増減額(△は増加)	△359	850
仕入債務の増減額(△は減少)	3,282	3,783
未払金の増減額(△は減少)	174	△103
その他	320	22
小計	4,327	7,101
利息及び配当金の受取額	62	58
法人税等の還付額	1,293	186
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,683	7,346
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△202	—
有価証券の償還による収入	300	300
投資有価証券の取得による支出	△408	△200
有形固定資産の取得による支出	△1,791	△2,945
有形固定資産の売却による収入	0	3
無形固定資産の取得による支出	△75	△65
投資その他の資産の取得による支出	△117	△3
投資その他の資産の回収による収入	44	28
その他	△1	△0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,252	△2,882
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△609	△854
自己株式の取得による支出	—	△1,157
財務活動によるキャッシュ・フロー	△609	△2,011
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	2,821	2,452
現金及び現金同等物の期首残高	25,788	20,794
現金及び現金同等物の四半期末残高	28,609	23,247

(4) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。